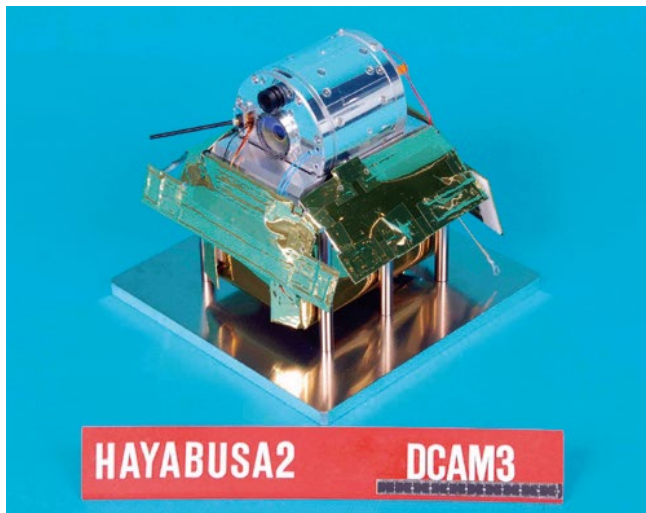


小惑星探査機「はやぶさ2」搭載 分離カメラ「DCAM3」

クレーター生成という重要な瞬間を記録する、理学観測用のデジタル高解像度カメラ



©JAXA

- ▶ 4号缶ほどのサイズの超小型・分離式のロボットカメラ
- ▶ 衝突予定地点を約1キロメートルほど離れた側面から撮影
- ▶ 衝突の瞬間とその前後の画像データを探査機本体に無線で送信
- ▶ 画像サイズ2000×2000ピクセルの高解像デジタルカメラ
- ▶ 解像度1メートルの画像を1秒間に1コマ撮影できる機能を保有

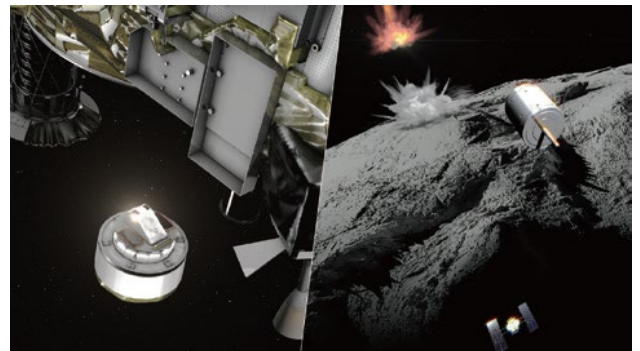
NEWS

2019.4

Mission success

「はやぶさ2」搭載の 分離カメラ「DCAM3」 撮影成功！

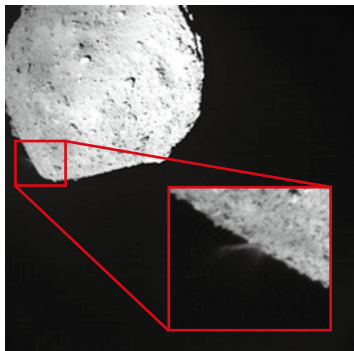
2019年4月、小惑星リュウグウに金属弾を衝突させ、小惑星表面に人工的なクレーターを作り、その様子を撮影するという世界初のミッションが実施されました。



「はやぶさ2」搭載の衝突装置（SCI）の切り離しのイメージ図。衝突装置運用の様子は分離カメラ「DCAM3」により観測し、探査機本体は小惑星から一時離脱します。

©JAXA

衝突装置作動の約3秒後



©JAXA/神戸大・千葉工大・高知大・産業医科大

小惑星リュウグウから 噴出物が広がる様子を捉えました。

超小型・分離式カメラ「DCAM3」は「はやぶさ2」より分離し、衝突装置の作動後小惑星リュウグウから噴出物が広がる様子の撮影に成功しました。明星電気では、4号缶ほどのサイズの「DCAM3」に内蔵された理学観測用カメラ（デジタル系）とその無線通信システムの開発を担当。理学観測用カメラ（デジタル系）は3時間以上撮像観測し、探査機側で画像を受信できていることが確認されました。探査機に保存された高解像度デジタル画像データは順次地球に送信されます。